

令和5年度 第1回米原市地域包括支援センター運営協議会 会議録

日 時	令和5年7月27日（木）午後7時から午後8時45分	
場 所	米原市役所 本庁舎1階 コンベンションホール	
出席者	委 員	塚本隆弘委員、久保健次委員、西沢祐太郎委員、田中優至委員、 吉田洋子委員、竹腰裕紀委員、長野温子委員、 横井弘隆委員、田中雄一委員（欠席：瀧上啓志委員）
	事務局	福祉政策課：森川、西村、藤本、夏原、立木、祖父江、富士原、古田 入戸野、井ノ上、竹岡 米原近江地域包括支援センター：山添センター長、桐山、吉田、尾川、内藤 山東伊吹地域包括支援センター：今井センター長、川瀬、高居、原 認知症初期集中支援チーム：中村医師、今井、多賀
議 題	<p>会長、副会長選出</p> <p>地域包括支援センター 協議・報告事項</p> <p>（1）米原市地域包括支援センターについて 資料1</p> <p>（2）令和4年度地域包括支援センター実績報告 資料2</p> <p>（3）令和5年度地域包括支援センター運営方針・事業計画について 資料3</p> <p>（4）指定介護予防支援事業および介護予防ケアマネジメント業務の 一部委託にかかる指定居宅介護支援事業所について 資料4</p> <p>認知症初期集中支援チーム検討委員会</p> <p>（1）令和4年度認知症初期集中支援チーム実績報告 資料5</p> <p>（2）令和5年度認知症初期集中支援チーム事業計画 資料6</p> <p>高齢者が住みなれた地域で安心して暮らしていくために必要なこと 資料7</p>	

会長、副会長選出

会長に塚本隆弘委員、副会長に西沢祐太郎委員が選出されました。

(1) 米原市地域包括支援センターについて

別紙の資料1に基づき、米原市地域包括支援センターの設置目的や役割を説明しました。また、資料2の1ページに基づき、米原市地域包括支援センターの体制について説明しました。

(2) 令和4年度地域包括支援センター実績報告

(3) 令和5年度地域包括支援センター運営方針・事業計画について

委員	・事業報告の中の3ページ、高齢者虐待防止・対応の実績①相談・通報ケース対応の相談・通報16件の内、虐待あり12件、虐待なし1件、判断できず3件ということですが、判断できずのケースは、今年度に入ってから結果が虐待ありなのか虐待なしになったのか確認をさせていただきたい。
事務局	・通報があれば虐待のありなしの判断をしていかなければならないところですが、判断できずになっているところがあります。本人・家族に関わっている介護サービス

委員	<p>機関であったり、地域包括で引き続き見守りをさせていただいているところです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料2の1ページのところで、(5) 地域包括支援センター研修会「リハマネ加算Ⅱを活用した自立支援について」と「高次脳機能障害の評価と解釈」を開催しております。この研修会の実施主体は市でされたのでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 市で実施しております。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 包括の仕事を今日聞いて大変だと思う。介護保険・高齢者といっても40歳から介護保険を利用される方もおられる。その中で、その人が地域で安心して暮らしていくには、その人らしい暮らしということで、40歳から65歳で介護保険を使う方の暮らしは、80歳から100歳とはまた違うと思う。今回の研修は時代にふさわしいと思いました。

(4) 指定介護予防支援事業および介護予防ケアマネジメント業務の一部委託にかかる指定居宅介護支援事業所について

	<p>令和5年度に追加となる指定居宅介護予防承支援事業所の選定について、1事業所が承認されました。</p>
--	---

認知症初期集中支援チーム検討委員会

- (1) 令和4年度認知症初期集中支援チーム実績報告
- (2) 令和5年度認知症初期集中支援チーム事業計画

	<p>別紙の資料5に基づき、令和4年度認知症初期集中支援チーム実績報告を説明しました。また、資料6に基づき、令和5年度認知症初期集中支援チーム事業計画を説明しました。</p>
--	---

意見交換（高齢者が住みなれた地域で安心して暮らしていくために必要なこと）

事務局	<p>別紙の資料7に基づき説明</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の方が住みなれた地域で安心して暮らして行くためにはどのようなことが必要なのか。委員の皆様、それぞれのお立場から何か意見をいただければと思いますが、どうでしょうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 調剤に特化した部分で御家族さんや本人さんと関わる仕事についている。ごく一部を見ている部分でしかないが、10年間やっている中で感じるのが、一世帯あたりの家族数が減っているとの話もありましたが、その中で介護者の負担は増えている。最近特に思うのが、親御さんと独身のお子さんが一人で介護されている。そのお子さんも還暦を過ぎていて介護力も認知力も落ちてきている。社会的にも体力的にも経済的にも介護が難しくなっているケースが増えていると思う。最近ちょっとそういったケースが何件かありまして包括支援センターへ相談して迅速な対応をいただいたが、今後こういったケースが増えた場合にどのような体制で臨まれるのか

	<p>お聞かせいただければと思う。経済的部分のサポートが特に難しいと思うが、生活保護も視野に入れた家族さんのサポートも必要になってくると思う。そのへんのところについて教えていただければと思う。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な事情で経済的な問題がすごく多くなっているのが現状として大きい。ただ、包括では予算など行政的な部分では関与できない。今の意見は市にお答えいただかないといけない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、コロナが開けて人々の動きが盛んになってきたのと合わせて、問い合わせや実際の現場のケース対応が増えてきました。取組として考えていますのが現場対応を早くしていくこと、そして、現場の情報を基幹包括センターにも早く伝えていただいて共有し、それぞれが役割分担して対応して行くことになります。今の地域包括支援センターは専門性が高く、資格を持った専門職が現場の情報を聞いて分析していただく、市役所は福祉制度などをもっている。また、市役所でないと把握できない情報もある。それをうまく組み合わせて、早期対応に心がけることが重要と思っています。これも日々試行錯誤しているので今後の課題でもあります。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・課題4 複合的な課題への包括的相談支援は、これから大変かなと思う。今、地域共生社会で高齢者部門と障がい者部門、子育て部門を包括的な推進いただいてその横の連携も大変大事ですし、連携すると言うのは難しいと思っている。相手が分からないとできない。今までにない課題も出ている。行政と一緒にやる重層的支援体制にも米原市は県下で一番取り組んでいると思う。行政と包括が一緒になって取り組んでいる。特に高齢者社会には大切かなと思った。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・先程、課題が複合化している説明をしましたが、例えば家族支援、家庭の中に入りますと障がい者の方がおられたりとか、子どもの問題があったり、事情がある状況では市役所や関係機関に早くつないで状況を悪化させないということでやって行きたいと思います。また、重層的な取組について御意見をいただきました。これについては地域包括だけでなく社会福祉協議会とも連携をしながら、米原市が一つとなって連携して行くことが大事だと思っています。これからもそのことを大切にしながらやって行きたいと思います。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会さんにすごく協力していただいております、益々そういう活動をみんなにつながっていけるように広げていきたいと思っています。米原市からの支援で児童発達支援センターも備えていて、児童発達相談員も包括の方に入れている状況です。まだまだ活動が少ないので、そういうところにもつなげられるよう頑張っていきたいと思っています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険事業計画の策定ということなんで、ここの課題に並んでいる部分は一人一人が抱えておられるニーズに向き合うためのハード面やソフト面の形なんです、権利擁護センターから見れば、本人に対する受け方としての意思決定支援であると

委員	<p>か、本人主体というものを折り込んでいただいた形で、これからも包括支援センターとかケアマネージャーとかあらゆる事業所が対応できるよう書いていただくと有難いかなというのが一つ思う。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の立場から言わせてもらおうと、介護予防のケアマネジメントの料金・報酬というのが前回の委員会でも出ていたと思う。先月、先々月と各事業所さんにも負担をおかけしたんですが、実際ケアマネが辞めることになって、それぞれに協力をお願いして包括支援センターにも無理を言いながら予防のプランとかをお願いしてきた。実際としては、予防プランはどこもしんどい。ということは実際、割が合わないことが実態だと思う。先ほどのリストで事業所は増えても受けづらさがあるということ踏まえて事業計画の中で御検討いただきたいのが一つある。それと総合事業の通所サービスの緩和型のところ、これについても今後の見直しの中では要介護になってもそれが利用できるような方向が出ているが、米原市としてどうするか協議される中に出てくると思うが、事業所として受けている中で予防プランを持っている中でケアマネージャーさんも介護度が上がってからのサービスの場所の移行ということでは、非常にしんどい思いをお互いがしているのかなと思う。どのように本人さんに説明していくのかもそうですが、いずれ重度になってこられるとせざるを得ない部分は絶対あるので、僕らでも色々な相談を受けていると、最初、導入しやすいソフトの部分で入ってしまうので、いずれ向き合うしんどさの部分よけてマネジメントしがちなんですが、そこがお互いの事業所とかケアマネージャーとの難しさであるとか適切な介護認定が出しづらいことになってしまわないような建付けを是非御検討いただきたいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の5番のところのアンケートで在宅生活の継続・充実に必要であるのは移送サービスと結果が出ている。高齢ドライバーの方が運転免許証を返納したあと買い物どうしようとか通院どうしようとか、困っておられる方が多いと思う。運転は怖いなあと思うがなかなかやめられないという方を担当している。気を付けてくださいねとか、止めておいてくださいはい簡単に言えるが、そこから先、通販であったり、まいちゃん号を使うというのは、その方にとっては、今運転していることより正直難しいことなのかなと思っている。やめておいたらいいとは思いますが、今できていることを奪ってしまうので、どう言ってあげればいいのか悩む。ここにアンケート結果として出ていて確かに課題であるなと思った。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・わずかですが在宅医療をしている立場から述べたい。在宅医療は、家族にある程度介護に協力してもらえらる素地があったり、言わば、そういう恵まれたお年寄りのできる医療だと思っていたが、最近ではむしろ困った家庭から依頼が入って来ることが多い。経済的な問題も第一にあるが、介護すべき人がすでに支援がいるというか、どうにもならない状況でいきなり何とかしてくれみたいな感じで入ってくる。私に言われても困るし、ケアマネージャーさんも困ってしまう。そういうケースは市の方が頼んだらなんかしてもらえらるだろうか。最近では特に増えて来ていて、在宅医療の用語ではあまり良くない言葉ですが、複合困難家族という言い方をします。そういう

委員	ものに対する支援は、支援センターだけでは無理かもしれない。いろんな全体的なバックアップが必要でないかと感じている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 近江地域では、何か困りごとがあったら「地域包括へ相談に行ったらいいよ」と会議の中では、すぐにそんな話が出ている。民生委員は専門職でもないのに、困っている人を見つけてつなぐだけの仕事なんですけど、つなぐ先が全て地域包括ということで大変お世話になっています。先ほどの移送サービスではないが、免許返納で買い物に行けなくなった人が近所の人に買い物に連れて行ってと頼まれる。頼まれた人もしょっちゅう言われると困ってしまわれる。私が何か困りごとは無いかと聞いても「何も困っていないと」答える。そういうことがあって地域での支え合いが大切と思うが、本人さんをどうしてあげたらいいのかなというのもあって、やはり地域で考えていく必要があると思っている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 地域の支えという言葉をいただきました。お茶の間等を実際されていると思いますが、そのお立場で一つ御発言いただけたらと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 今までサロンは、民生委員さんが高齢者だけを対象に長年考えてくださいました。民生委員が変わられて3年前の7月にサロンを立ち上げました。サロンの仲間を増やして行こうと取組をしているが全員が来てくれるわけではない。地域で見守り活動しながらサロンを開催している。見守りネットワーク会議はサロンの終了後に行っている。情報共有することはすごく大事ななと思っていてサロンだよりを月1回出し各世帯に配付している。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> サロンをされている委員、いかかでしょうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 今の話を聞いて羨ましい限りでスタッフが居なくて現在は8名。その内、4名は80才を超えている。スタッフが少ないので大変。毎月第3木曜にサロンを開催していて、そのほかの木曜日は場所づくりのカフェを開いている。スタッフの中にも認知が進んでいるのがわかる方がいる。本人へ病院を進めたがすぐに行ってもらえず2、3年経ってようやく病院かデイサービスに行ってくれたようだ。今は遅らせるお薬もあるようで早く行ってくれさるといいのにと思っていた。認知になりかけの時って半分しっかりしておられる。なかなか行ってもらえない。そういう時はどこに相談に行ったらいいのかわからない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 現状としまして、患者さんに対してもそうですが、認知症が進んでいても本人さんや、もしくは遠く離れている家族さんに何度説明させてもらってもそういう認識を持っていただけずに医療やいろんなところにつながなければ難しい状態は多々あるんですけども、みんなで考えて行かなければならないところではあるので、そういうことがありましたら包括へ相談していただければ有難いです。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 事業所での活動で買い物支援とかをどうされてたりとか、専門職の立場でお気づき

事務局	<p>のところとかご紹介いただければと思います。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・課題2のフレイル対策のところ、米原市からの委託でフレイル対策事業についてうちの法人が協力をしている。ご紹介いただくリストの人数は結構多い人数なんです、実際にこちらからその方に電話をすると、半数もしくは3分の2ぐらいの方はお断りをされる。そのことを考えると米原市が思っているよりも本人さんたちはそこまで困っていない。私たち動いていますというような実際の生活の中でもよく動けていて、私たち健康なのになんでこういう事業があるというお言葉がある。高齢化が進んで来る、介護保険の前段階として対応したいといったところだとは思いますが、市と実際の地域でギャップがあるのかなと感じる。かと言って、こうやったらいいという案は出せないが、実際そういうお声があるので、そのギャップを埋めるような対策が必要かなと思う。先ほど買い物支援事業の話があったが、買い物支援事業はすごいニーズがある。一人で買い物に行けないとか誰にも送ってもらえないという方はもちろんおられる。買い物をして楽しみたいとか、スーパーで季節感を味わう、旬の野菜の楽しみ方のためご利用いただくのは増えて来ている印象がある。うちの法人の事業はいいとお言葉を聞くが、フェードアウトしてそこまで多く取れていないので、地域のニーズを受け皿としてやっていただける事業所が増えて来たらすごいいいのかなと思う。 ・要支援の方の問合せが多い。問合せの中にはリハビリをしたいと入浴の支援をお願いできないかとの問合せが結構多い。要支援の方のリハビリの加算が正直ないというところもあって、ほかの法人さんもお断りをされている話を聞く。そういったニーズがある中で何とかして上げたいけれどもがなかなか受け入れられない現状がある。リハビリに関しては自費でリハビリができてもいいかなと思うが、マンパワー的にもスペース的にも難しいといったところがある。どうしたらいいのかと思うところがある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援の方への支援とか、料金制度とかどうあるのかなとの問題提起もあるなど思い聞かせていただきました。有難うございました。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員から貴重な御意見を賜りました。事務局におかれましてはこれらの意見を反映していただきまして、高齢者が安心して生活できますように事業を進めていただきたいと思います。